

TAKE FREE

北海道石狩振興局©新規就農スタートブック

# 私たちが 石狩で就農する 7つの理由。

*Our Farming Story in Ishikari*



「農業には地縁や“コネ”が必要…」 「夫婦じゃないければ就農は難しい…」

新規就農の夢を抱きながらも、そう考えている人はきっと多いはず。

こうした考えは概ね正しく、農業が甘くないのは事実。

でも、あくまで一般論です。

北海道石狩では、今まさに2人の若い女性が

農家になることを目指して就農研修の真っ最中。

彼女たちが「石狩」を選んだ7つの理由をご紹介します。



# 理由 1 若者も、女性も、農家になれる

万全のサポート体制を整えているから。

女性一人での就農の夢を実現できる舞台が石狩です。

私たちが実際に石狩で就農しました！

## people.01

女性一人のチャレンジに耳を傾けてくれたのが石狩市でした。

子どものころから土に触れることや植物を育てることに興味がありました。大学では一年目から「就職」ではなく「就農」活動に励み、夏休みのたびに道内各地の農家で働かせてもらって、自分にはどんな農業が合うかを模索してきました。北海道で新規就農を受け入れている自治体はたくさんありますが、夫婦であることや一定の資金があることを条件にしているところが多く、大学を卒業したばかりの私にはかなり高いハードル…。そんな中、条件よりもまず私が目指す農業の話に耳を傾けてくれて、親身に受け止めてくれたのが石狩市だったのです。

### 農業研修生 廣井かれんさん

1997年生まれ。新潟県出身。将来は農家になることを夢見て北海道の酪農学園大学に進学。石狩市の農業研修生として新規就農を目指している。



## people.02

いくつもの縁が重なってふるさとでの就農を決意しました。

就農を意識したのは今から数年前。子育てが一段落し、これからの人生で何をしたいかと考えた時に、「経営がしたい」「ものづくりがしたい」「長く継続できる仕事がいい」といった私の希望を並べてみて、農業ならこれらを全部満たせるかもしれないと思い至ったのです。石狩市は私の地元なんですけど、正直、農業のことはほとんど知りませんでした（苦笑）。ところが、就農イベントを通じて知り合った方から紹介していただいたのが偶然、石狩市の農家さんだったという縁もあり、ふるさとでの就農にチャレンジすることにしました。

### 農業研修生 佐々木ひろみさん

1985年生まれ。北海道石狩市出身。飲食業界で長く働き、自身の将来を見据えて新規就農を決意。小学生の娘を持つシングルマザー。



From ISHIKARI

ハードルは高いけれど、可能性はゼロじゃない。  
ふたりの熱意に応えたいと思ったんです。

石狩市農業総合支援センター 小野裕之さん



女性一人で就農と聞いて首をかき上げる人は多いと思います。「男性一人でも難しいのに、まして女性では…」という意見ももっともです。当センターとしても「女性一人の就農は難しい」という認識は皆さんと同じ。研修生ふたりもそのことはしっかり理解しています。ではなぜ、研修生として受け入れたのかと言えば、ふたりの熱意に応えたかったというのが一番の理由です。担い手不足が深刻化する昨今、農業に熱意を持った人材がせっかく目の前にいるに「若いから」「女性だ

から」という理由だけで門戸を閉ざすべきではないと考えました。営農には女性的なきめ細やかさや色彩感覚、経営センスが生かせる場面が少なくありませんし、研修期間中に同じ目標に向かうパートナーと出会う可能性も十分に考えられます。事前の打ち合わせや面談を通して、農業への思いが真剣であることも伝わってきましたので、当センターでは、ふたりのチャレンジを全力でバックアップしていこうと決めたのです。

※取材実施期間：2020年7～10月  
※佐々木さん、廣井さんのお二人は、2021年4月に独立就農をする予定です。